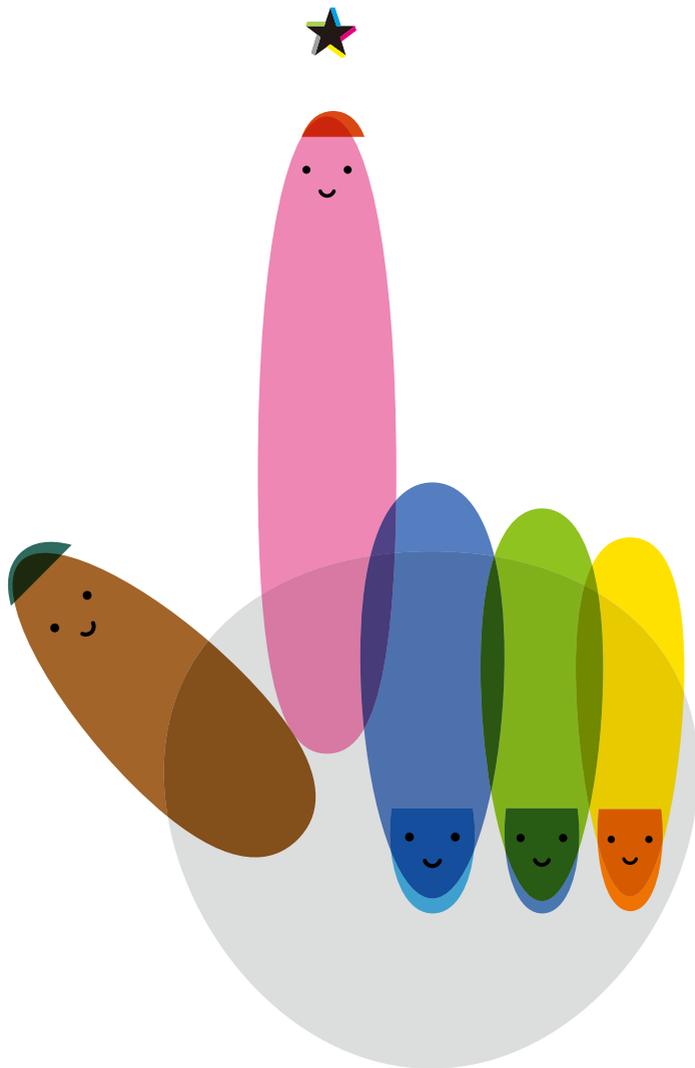


TAD Letter | 10



富山県美術館

Toyama Prefectural Museum of Art and Design

START★みんなのミュージアム2020 わたしの色、ぼくらのセカイ

2020年1月18日(土) - 2月24日(月・振休)

富山県美術館では、子どもたちが主役(STAR☆)の展覧会を開催しています。今回は、現代美術作家の塩川岳さんを招待し、「色」をテーマに、学校と塩川さんとのコラボ作品など、県内8学校が制作した作品を紹介。また、塩川さん企画の創作・体験コーナーも設けています。子どもから大人まで、会期中も楽しく制作し遊べるしかけが満載です。ぜひご来館ください!!

主要作品介绍



見どころ

01

2校からのコラボ作品(合計8校から出品)

アーティストとのコラボを、今回特別に小学校と高等学校の2校で実施しています(通常1校)。小学生と高校生が、アーティストと関わることによってどんな作品が生まれたのか、ぜひ実際にご覧ください。また、出品校も通常7校のところ希望多数により今回は8校に。子どもたちの個性あふれる作品をどうぞ楽しみに!(各校からの出題クイズを解きながら楽しく鑑賞いただけます)。



富山市立宮野小学校×塩川岳
《エアドームをつくるーわたしたちの宮野ー》



富山県立富山西高等学校×塩川岳
《マイ フェイバリット》

02

1,000点以上のプレワークショップ作品等を展示

「みる・つくる・発表する」を前回展に引き続き実施しています。規模も点数もさらにパワーアップさせ、出品校以外の多くの子どもたちが制作した1,000点以上の作品も紹介します。会場では家族や友だちとみんな一緒に探検してもらいます!



空飛ぶ生きものを探そう!



空想ビニールZOO

03

新たにスペースを拡大

今回は、展示室3および4の2室で開催していた本展ですが、今回は、新たに展示室2をプラスして無料の創作・体験空間としました。巨大カラードームに入って遊んだり、ワークショップに参加したり、楽しい創作・体験プログラムを実施しています。



カラードーム

04

会期中でも参加できる!

アトリエで実施しているオープンラボ(ワークショップ)を、本展開催にあわせ、展示室2にお引越。子どもも大人も会期中に参加できるアーティストとのコラボ空間をつくりました。

さあ、みんなLet's Try!



ソフソフ
(続々) キラキラ光る富山城をつくろう!

開館時間	9:30-18:00 (入館は17:30まで)
休館日	毎週水曜日 ※2月24日(月・振休)は臨時開館
会場	富山県美術館2階 展示室2、3、4 ※展示室2は無料です
主催	富山県、富山県教育委員会、富山県美術館
後援	北日本新聞社、富山テレビ放送 富山県小学校長会、富山県中学校長会、富山県高等学校長協会 富山県特別支援学校長会、富山県私立中学高等学校協会、富山県小学校教育研究会 富山県中学校教育研究会、富山県高等学校教育研究会、富山県中学校文化連盟 富山県高等学校文化連盟、富山県特別支援学校文化連盟
観覧料	一般 500(400)円、大学生 250(200)円、高校生以下無料 ※()内は20名以上の団体料金

開催概要

※詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。内容等は都合により変更する場合があります。

関連イベント

01

スペシャル
パーティータイム

展示室2を消灯し、いつもと違う空間で作品を鑑賞していただきます。	
日時	会期中の土日祝日開催 ※各回15分程度を予定しています。
	1回目 10:30- / 2回目 11:30-
	3回目 14:30- / 4回目 15:30-
	※他のイベントなどにより、時間変更またはお休みすることがあります。
会場	展示室2
料金	無料

02

学芸員による
ギャラリー・トーク

日時	2020年1月19日(日)、2月22日(土)
	各日14:00-(約30分)
会場	展示室2・3・4 (要当日有効の企画展チケット)
	※会場入り口にお集まりください。

森村泰昌のあそぶ美術史 -ほんきであそぶとせいかいはわかる-

2020年3月7日(土) - 5月10日(日) ※GW期(4月23日-5月6日)は無休



ポスター Design : 三木 健



第1章「ひっくりかえす」より 誰もみたことがない作品の裏側
一例えば、ジャクソン・ポロック《無題》
(右は作品の裏面)



森村泰昌《フェルメール研究(振り向く鏡)》
2008年、個人蔵

この企画展は2017年に全面開館した当館での初めての
大々的なコレクション展です。ゲストキュレーターに美術家の森村泰昌氏を迎え、時系列や技法等に区分する
“一般的な”展示ではなく、氏曰く「普通のコレクション
展示は絶対にやらない、思い切った展示を考える。見え
方の発想を変える。これらの試みを、〈あそび〉という三
文字にこめる。」という考えのもとに開催します。展覧会
を6つの章―「1.ひっくりかえす」、「2.いたずらもたまには
ちょっとやるといい」、「3.いしころのこえをきく」、
「4.ちがっているから おもしろい」、「5.おおきなうちゅう
は ちいさなはこのなか」、「6.ほんきでまねるとほんもの
になる」に分け、当館のコレクションと森村氏のセルフ
ポートレート作品などを大胆な文脈で紹介します。
森村氏は本展にて「本気のあそび」の神髄をみなさんに
伝えたい、という明確な意図があります。「あそび」がテ
マという、明るく楽しい、ふわふわとした展示をイメ

ジされる方もいらっしゃるでしょう。しかし、今回の
「本気のあそび」は違います。常識にとらわれない
ことの重要さ、視点や発想の転換のワクワク感を皆
さんに伝えたい、というメッセージが「本気のあそ
び」という言葉に込められています。本展開催にあ
たり、氏並びに当館は、美術作品や美術館という
枠を超え、日々の生活、それぞれの人生の中で「本
気のあそび」の精神が活用され、その心意気が多く
の方に浸透していくことを望んでいます。社会全体
の価値観が急激に変化する現代だからこそ、すで
に“過去”になりつつある、多くの社会変革や悲惨
な戦争がおこった“20世紀”を生きたアーティスト
たちの作品をコレクションする当館で、本展を開催
する意味は大きいです。同時に、「あそび」相手にな
った作品たちは、みなさんの「ともだち」としてと
ても身近な存在になる機会となるでしょう。



見どころ

主要作品紹介

01

誰もみたことのない作品の展示

美術館の役割の中に作品の展示や研究とともに保存修復があります。本展では当館で修復や顔の変更をしたことを機に、作品の裏側にある情報、(作家が意図したのもも意図しなかったものもありますが、) 普段絶対に目にできない箇所をご覧くださいことで、作家の苦心の跡など作品を身近に、あるいは生々しく感じていただく展示を第1章で行います。特にルーチョ・フォンタナやジャスパー・ジョーンズの裏面は必見です。

02

名画でたどる森村泰昌作品を紹介

古今東西の名画に扮したセルフポートレートで高く評価されている森村氏。レオナルド・ダ・ヴィンチやフェルメールなど、様々な芸術家や作品に扮した森村氏の作品を富山では初めて大々的にご紹介します。とくにミロの絵画をモチーフにした新作《ほんきであそぶとせかいはかわる(ミロA,B)》は初公開です。森村氏の作風は写真合成などのテクニックではなく、文献を読み、セットを作り、自らに絵の具を塗り装置を身に付けてなりきるものです。本物の作品とはまた異なる本気さと作品の新たな解釈への道へみなさんをいざなうでしょう。

03

展覧会ポスターやグラフィックの面白さ

デザイナー・三木健氏によるポスターやチラシのデザイン、展覧会にあわせて刊行される絵本には森村氏の意向をとりいれたあそびどころと洗練されたグラフィックデザインがご覧いただけます。会場のユニークなグラフィックも三木氏監修。森村氏による会場構成など以外にも、微笑むことができる「あそび」も満載です。

一ダブ一ダブの森村泰昌

森村泰昌



開館時間 9:30-18:00 (入館は17:30まで)

休館日 水曜日(祝日を除く)、祝日の翌日。(4月23日-5月6日は無休)

会場 富山県美術館2階 展示室2、3、4

主催 富山県美術館、北日本新聞社、チューリップテレビ

協力 モリムラ@ミュージアム

観覧料 一般 900(700)円、大学生 450(350)円、高校生以下無料

※()内は20名以上の団体料金

開催概要

※詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。内容等は都合により変更する場合があります。

関連イベント

01 森村泰昌講演会

森村泰昌講演会「森村泰昌のあそび術-世界をかえる方法教えます」

日時 2020年3月7日(土) 14:00-(約90分)

会場 3階ホール(定員約100名、先着順、要企画展チケット提示)

料金 無料

02 記念対談

日比野克彦×森村泰昌「びじゅつであそぶ2人のゆくえ(仮)」

日時 2020年4月18日(土) 14:00-(約90分)

会場 3階ホール(定員約100名、先着順、要企画展チケット提示)

料金 無料

03 森村泰昌 映像作品上映会

収蔵作品の《海の幸・戦場の頂上の旗》を含めた
森村泰昌の映像作品の特別上映会

日時 2020年3月22日(日)、23日(月)
10:00- / 15:00-

会場 3階ホール(定員約80名、先着順、要企画展チケット提示)

料金 無料

加納光於氏によるアーティスト・トーク

企画展「瀧口修造／加納光於《海燕のセミアオテイク》2019」が開催した翌日（11月2日）、本展図録にご寄稿頂いた瀧口研究者の岩崎美弥子氏を聞き手に迎え、加納光於氏によるアーティスト・トークを開催しました。トークでは、加納氏と瀧口の交流を軸に、加納氏の自作のタイトルの付け方や独自の色彩

観、また亜鉛版合金の板を腐蝕液に長時間浸す技法の秘密に至るまで、創作活動全般についてお伺いしました。また後半には、瀧口が加納氏の作品からイメージした「骨ノ鏡」という言葉について、人間の骨や松尾芭蕉の俳句などを取り上げながら、そのイメージの源泉についてもお話いただきました。



当日の会場の様子



当日の会場の様子

TADアート・レクチャー

川上元美氏 「チェア・デザイン -人と技術をつなぐ」

講師 川上元美氏（デザイナー）
日 時 2019年11月10日（日）10:30-
参加人数 52名

椅子をはじめインテリアやプロダクトのデザインを手掛けている川上元美氏を招いた、TADアート・レクチャー。当館のホールでは、川上氏がデザインした椅子《ブロンクス》を使用しており、実際にその椅子に座ってのレクチャーとなりました。製品としての《ブロンクス》の座面と背部分は黒色ですが、ホールの椅子は当館に合わせて特別に弁柄色で制作。また、監視員の椅子も川上氏がデザインをした物を使っ

ています。川上氏が初期にデザインしたプラスチック素材を使った椅子から、近年の檜を使った浴槽、杉を使った椅子、昨年関わられた「君の椅子」プロジェクトなど多岐に渡る活動についてお話をいただきました。



当日の会場の様子

企画展「START☆みんなのミュージアム2020」でできる創作体験

会場 富山県美術館2階 展示室2

- カラードームに入って遊ぼう
- 空飛ぶ生きものを探そう！
- 空想ビニールZOO
- 夢の実をつくろう
- (続々)キラキラ光る富山城をつくろう！
- 重ねてつくるみんなのセカイ(つみき)

参加
無料

※展覧会の詳細については本紙P.2-3をご参照ください。

※大事なお知らせ※

下記の期間中、3階アトリエでの活動は休止いたします。
恐れ入りますが、予めご了承ください。
1月18日(土)~2月24日(月・振休) <平日/土日祝ともに>



「空想ビニールZOO」イメージ



「重ねてつくるみんなのセカイ」イメージ

イベント案内

EVENT
01

森村泰昌のあそぶ美術史-ほんきであそぶとせかいはかわる-展 関連ワークショップ 「へんしん!! ゆきやまかんちょう」

開催概要

富山県美術館の雪山館長の写真に自由に手を加え、自分だけの理想の館長像をつくります。制作体験のほか、子供向けの美術館ツアーも併せて実施します。

日時 2020年3月8日(日) 13:00-16:00
講師 井野敬裕氏(モリムラ@ミュージアム、エドゥケーター・アーティスト)
会場 富山県美術館3階アトリエ
定員 20名(定員になり次第締め切ります。詳細はHPをご覧ください。)
対象 小学生以上
料金 無料(要事前申込。https://tad-toyama.jp/)

EVENT
02

TAD アート・レクチャー 「美術の大きさ」(仮)

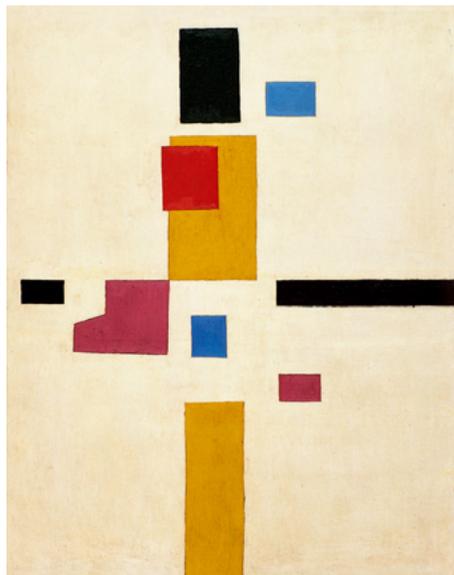
古今東西の美術の流れを俯瞰的にみる美術史家で神戸大学大学院人文学研究科教授の宮下規久朗氏をお招きし、壁画やアメリカの風景画、抽象表現主義の作品、ランドアートなど、他分野とも思える美術を「大きさ」というユニークな切り口でお話しいたごします。

日時 2020年3月14日(土) 14:00- ※開場13:30
会場 富山県美術館3階ホール
定員 100名
料金 無料(申込不要)

聚落

村井 正誠

1943年 キャンバス・油絵具



白く塗られた地に、赤・青・黄・黒の四角形が各々距離を保ち、あるいは重なりつつ慎重に配置されている。縦横に引き伸ばされたような黄と黒の四角形は、とりわけ黄色が注意をひく色であるためか、画面全体にどことも緊張感が漂う。作品名を知ってから再度みてみると、画面左側に四角形ともいえない建物と思しき形が配されており、これらの抽象的な幾何学形がどこか「聚落(集落)」の一角を鳥瞰した表現であることに気が付く。

村井正誠(1905-1999)は、1928年、文化学院卒業の翌月に渡仏。当初はルノワールに傾倒し、「よい風景画家」を志していたが、在仏中にモンドリアンら同時代の構成的な抽象表現に大いに刺激を受けて以降、抽象絵画の表現に目覚める。1932年の帰国後は既存の美術団体から離れ、「自由美術協会」など数々の美術団体創立に携わるなど戦前から戦後を通して日本の前衛芸術、とりわけ抽象の分野において先駆的かつ重要な役割を果たし続けた。

村井の抽象表現の発表は、1937年自由美術協会の第1回公募展の《URBAIN》に端を発する。街景を上空から鳥瞰

した様な構図、幾何学抽象的表現に特徴のある作品群で、1943年頃にかけて多様なバリエーションを繰り返し制作、村井の戦前・戦時下の作風を代表するものとなっている。

《URBAIN》をはじめとした初期の作品は、街の構図がわかるほど細々とした建物が描かれており、モンドリアンの《ブロードウェイ・ブギウギ》(1942-43年、ニューヨーク近代美術館蔵)を思わせる向きもある。街景を描く際は新聞記事などに掲載された航空写真をヒントとしており、類似の作品《支那の街》(1938年)、《百霊廟》(1938年)は、「防諜の上から好ましくない」として、その発表時に軍部から注意勧告を受けたという。こうした戦況が影響したかは定かではないが、一連の作品において次第にその抽象度は増していき、本作においても説明的な描写は影をひそめ、より抑制の効いた表現となっている。いずれにせよ、暗鬱な戦況下においても村井は新たな表現に挑戦し続けたのであり、本作はその変遷を象徴するものとしてみる事ができるのではないだろうか。

(学芸員 水須 詩織)

富山県美術館(TAD)

〒930-0806 富山県富山市木場町 3-20 (富岩運河環水公園内)

TEL 076-431-2711 FAX 076-431-2712 <https://tad-toyama.jp/>